

科目名	舞踊Ⅳ								年度	2025
英語科目名	Japanese Dance Ⅳ								学期	後期
学科・学年	声優・演劇科 2 年次	必／選	選	時間数	40	単位数	1	種別※	実技	
担当教員	花柳寿芽月		教員の実務経験			実務経験の職種				
【科目の目的】										
舞踊Ⅲの授業でインプットしてきたものを、アウトプットする行程に切り替えていく。具体的には、成果発表時のキャスティングやフォーメーションでの実習（入退場なども含む）、実寸（床にバミリなどで個人個人の立ち位置や入退場を示す）での稽古、実際の曲順での反復などを中心とする。別に、着付け・礼儀作法・扇子の扱い・舞踊も鑑賞に耐えうるレベルに到達するまで細かくセッションごとに稽古する。										
【科目の概要】										
日本舞踊を通じて品や礼節を身につける。										
【到達目標】										
芸能は全てそうであるが、日本の伝統芸能も一筋縄ではいかないものが多い。 勉強して積み重ねてきたことだけが本番で表出する。短時間に習得したものは顕れない。 成果発表の時期には、着付け・礼儀作法・扇子の扱い・舞踊すべてが鑑賞に耐えうるレベルに到達したい。 また、この授業を通して技能・知識だけでなく、集団での協調性や助け合う気持ち、伝統を重んじる心や謙虚な姿勢なども習得する。										
【授業の注意点】										
舞踊Ⅲ同様に、この授業独特の挨拶の仕方や設定されたルールは遂行し、さらに成果発表に向けて個人プレーではなく集団プレーであることを認識する。一人の行動で大勢に迷惑のかかることのないよう注意を配る。 また、授業時数の4分の3以上出席しない者は定期試験を受験することができない。授業計画は成果発表の仕様・状況により、一部流動的となる。										
評価基準＝ルーブリック										
ルーブリック 評価	レベル5	レベル4	レベル3	レベル2	レベル1					
	優れている	よい	ふつう	あと少し	要努力					
到達目標 A	すべての基本動作を正確に、しっかりと した姿勢で表現できる。	ほぼ完璧に基本動作 を習得しており、若 干の改善点がある。	基本動作を習得して いるが、時々姿勢や 動きが不安定。	基本動作に課題が見 られ、改善の余地が 多い。	基本動作の習得が不 十分で、改善が必要 。					
到達目標 B	役柄にぴったり合っ た動きと表情を自然 に表現できる。	役柄に合った表現が でき、感情を表現す る場面も良い。	役柄に応じた表現を するが、表情や動き に少し不一致が見ら れる。	役柄に合わせた表現 が難しく、表情や動 きが単調になりが ち。	役柄に合った表現が できておらず、感情 や動きが乏しい。					
到達目標 C	礼節や品位が動きに 自然に表れ、適切に 示される。	礼節や品位を意識し て踊りに取り入れ、 表現できる。	礼節や品位を表現し ているが、時々不自 然になることがあ る。	礼節や品位があまり 表れておらず、改善 の必要性がある。	礼節や品位が全く表 れておらず、改善が 非常に必要。					
到達目標 D	舞踊に対して高い自 信を持ち、堂々と演 じる。	舞踊に自信を持って 取り組み、演技に安 定感がある。	舞踊に自信があり、 演技には集中してい るが時々緊張する。	舞踊に対する自信が 不足しており、演技 に不安定さが見られ る。	舞踊に対する自信が なく、演技が非常に 不安定で緊張してい る。					
到達目標 E	遅刻・欠席をしない	遅刻はあるが欠席は 少ない	遅刻・欠席が少ない	遅刻・欠席が多い	遅刻・欠席が非常に 多い					
【教科書】										

レジュメ・資料は必要に応じて配布。パソコン・タブレット・スマートフォンなどのモバイルツール、参考資料等は授業内で指示する。

【参考資料】

【成績の評価方法・評価基準】

小テストおよび期末テストにより採点。授業への積極性と参加態度を評価する。

※種別は講義、実習、演習のいずれかを記入。

科目名		舞踊Ⅳ			年度	2025
英語表記		Japanese Dance Ⅳ			学期	後期
回数	授業テーマ	各授業の目的	授業内容	到達目標＝修得するスキル	評価方法	自己評価
1	「長唄 越後獅子」	歌舞伎舞踊的作品のリズミカルな作品からリズムを感じる。	歌舞伎舞踊	歌舞伎舞踊におけるリズムの特徴を理解		
			「長唄 越後獅子」	「長唄 越後獅子」のリズムの理解		
			歌舞伎舞踊的作品	歌舞伎舞踊的作品の理解		
2	「長唄 越後獅子」	手踊りの表現、小道具の扱いの研究。	手踊りの表現	手踊りの表現の理解		
			小道具の扱い	小道具の扱いの研究		
			手踊りと小道具	手踊りと小道具の調和を研究		
3	「長唄 越後獅子」	音楽を感じながら身体表現に活かす。	長唄のリズム	長唄のリズムとメロディーを理解		
			身体表現	身体表現の理解		
			音楽と身体表現	音楽を感じながら身体表現		
4	「長唄 越後獅子」	音楽に合わせて役柄に合った表現で踊る。	役柄に合った表現	役柄に合った表現の実践		
			音楽の特徴	音楽の特徴を理解		
			役柄に求められる特徴	役柄に求められる特徴の理解		
5	「創作 湊-とう-」	歌舞伎舞踊的作品との違いを感じる。	創作舞踊	創作舞踊のスタイルの違いを理解		
			創作舞踊の表現方法	創作舞踊の表現方法の実践		
			歌舞伎舞踊的作品との比較	歌舞伎舞踊的作品と創作舞踊の比較		
6	「創作 湊-とう-」	個性を生かした表現について考える。	個性を生かした表現方法	個性を生かした表現方法の理解		
			創作舞踊の個性	創作舞踊に個性を取り込む		
			個性を生かしたアイデア	個性を生かしたアイデアの実践		
7	「創作 湊-とう-」	デュエット作品における個性を尊重した表現を探る。	デュエット作品の分析	多様な表現の習得		
			個性的な表現方法	個性的な表現方法の実践		
			デュエット作品の表現	デュエット作品の表現を創出		
8	「創作 湊-とう-」	舞踊表現についての発見を踏まえて踊る。	舞踊表現	舞踊表現の分析		
			身体表現	身体を通して舞踊表現を実践		
			舞踊表現の発見	舞踊表現での発見を踏まえて踊る		
9	まとめ	今までの復習 創作舞踊作品と歌舞伎舞踊的作品の違いを考える	復習	創作舞踊作品の振り返り		
			復習	歌舞伎舞踊的作品の振り返り		
			総合的な理解	創作舞踊作品と歌舞伎舞踊的作品の違いの理解		
10	総まとめ	「長唄 越後獅子」 「創作 湊-とう-」 舞踊発表	最終調整	舞踊発表の準備		
			舞踊発表	舞踊発表の実施		
			総まとめ	舞踊発表のまとめ		

11						
12						
13						
14						
15						

評価方法：1. 小テスト、2. パフォーマンス評価、3. その他

自己評価：S：とてもよくできた、A：よくできた、B：できた、C：少しできなかった、D：まったくできなかった

備考 等